

# 農空間

第80号

発行所  
福島県農林水産部  
農村計画課

## 【特集】ため池ハザードマップと防災意識の向上について

近年県内では、東日本大震災や昨年の令和元年東日本台風などの、自然災害が頻発しており、ため池の被害も多く発生しています。県及び市町村では「ため池マップ」や「ため池ハザードマップ」を作成し、近くにお住まいの皆さんが、万が一の災害による被害から大切な命を守っていただくことに、活用してもらいたいと考えていますので、それらの概要についてご説明します。

### 防災重点ため池とは

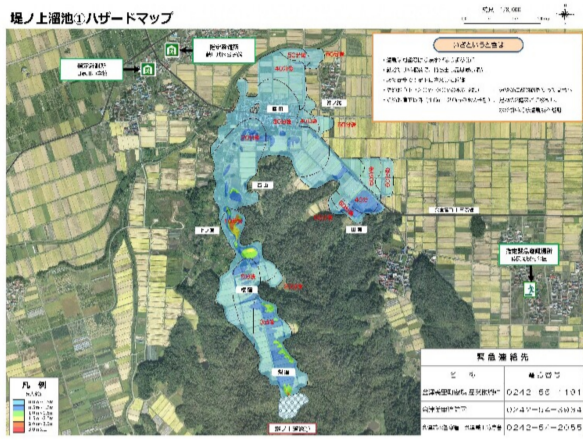
県内には約4,000箇所、農業用ため池があります。その中でも下流に家屋や公共施設等があり、決壊により人的被害のおそれがあるため池は「防災重点ため池」として指定されています。県内では1,472箇所のため池を防災重点ため池に指定しています。

### ため池ハザードマップとは

ため池が万が一決壊した場合に、迅速かつ安全に避難するため、それぞれのため池において、想定される浸水の範囲や、水深、到達時間、避難路、避難場所などを地図に明示した図面を「ため池ハザードマップ」と呼んでいます。

ハザードマップは、主に市町村が住民の皆さんと話し合いながら作成しています。地域住民の皆さんが、ハザードマップ作成に参画することにより、より

実効性の高い内容になるとともに、防災・減災への意識が高まり、万が一の決壊時に自らの命を守ることにつながります。現在、防災重点ため池を中心に約900箇所のため池でハザードマップが作成されており、作成したハザードマップは、地域住民の皆さんに配布したり、市町村のホームページに掲載したりして、周知しています。



### 防災意識の向上について

今年の7月豪雨の際、ため池の水位が上昇したこと、ハザードマップを見ていた地域住民が役場に連絡し、避難につながった事例がありました。

幸い被害はなかったのですが、これも、地域住民の皆さんの防災意識の高まりが、実際の避難につながった良い事例です。

日頃から、「ため池マップ」や「ため池ハザードマップ」を確認することが、防災意識向上の第1歩となります。今後も防災・減災へのご協力をお願いします。

【農村基盤整備課】

## 地域に根ざした 水土里ネット

## 会津若松市 湊土地改良区

### 会津

湊土地改良区は、福島県会津若松市街地より東方、猪苗代湖の西岸に位置し、標高は約520mにある中山間高冷地です。西の背炙山(せあぶりやま)、東の猪苗代湖の間にあつて南北に約10kmにわたる地区であり、受益面積1,035ha、組合員557人の土地改良区です。

管内では、土地改良区が中心となり排水改良に取り組みるとともに、地域全体を計画的にほ場整備を推進したことによりほ場整備率90%以上を達成し、生産コストの縮減、労働時間の短縮及び新規作物の導入に大きな成果を上げているところです。また、ほ場整備を契機として1集落1農場を目標として地域毎に9つの農地所有適格法人の組織化と農地中間管理事業への積極的な関与に加え、土地改良区の着実な啓発活動によるほ場整備の多面的機能支払交付金活動の取り組みから、農業水利施設の管理や畦畔の草刈りなどの法人の営農活動を地域全体でサポートする体制を確立し、地域農業の振興と地域活性化が展開

されています。

このような先進的な取り組みから組合員の信頼と円滑な土地改良区運営が実現し、さらに地域の防災・減災に向けたハザードマップの作成等や農村地域の環境保全活動の事務局を担い、地域住民の安全や地域環境の保全に寄与するなど地域と一体となった独創的かつ積極的な取り組み姿勢が評価され、令和元年度の全国土地改良功労者表彰において、農林水産大臣表彰の栄に浴することができました。これもひとえに、関係機関皆様の御指導御鞭撻の賜物と深く感謝するとともに厚く御礼申し上げます。

【湊土地改良区】



多面的活動組織の集合写真



原地区(ほ場整備完了地区)

## 県内からの便り

### 川俣町の農業を支える幹線農道整備

小島3期地区

### 県北農林事務所

県営一般農道小島地区(延長4,103m、幅員B11.5、5/7.0)は、伊達郡川俣町の北西部の小島地区の国道349号を起点として、県道月舘・川俣線までを結ぶ阿武隈山系の丘陵地に展開する農業地帯を縦断する幹線農道です。受益地は水稻を基幹とし、夏秋キュウリ、白菜、大根等の野菜の複合経営地帯ですが、農作物の集出荷は、屈曲が甚だしい幅員狭小の町道に依存するしかなく、かなりの不便をきたしています。幅員狭小区間の改良と農道の新設により、農産物及び農業資材搬入の効率化を進めるとともに、農産物の品質向上並びに農業経営の安定を図ることとしています。平成8年度に一般農道整備事業として県内では珍しい集落間整備として整備が始まり、1期(H8/19、L11、440m)・2期(H9/21、L11、300m)・3期(H24/、L11、363m)と分割採択され、現在は地区の中央部である最終区間の3期地区の工事を進めています。

【農村整備部】



上空からの小島3期地区



アンズリウム

3期地区では、計画路線に共有地が複数箇所あることが判明し、ルートの見直しが必要となったこと、また地区全体として約40万㎡もの切土が必要となり、関係市町、地域住民の皆様との協力を得て、5箇所の大規模な残土処理場を確保するなど、地域で一体となって開通を目指しています。

話は変わりますが、「アンズリウム」という花をご存じでしょうか?

福 耕 支 援 隊 情 報

相双農林事務所農村整備部では、今年度7県11名の福耕支援隊の応援をいただき、被災地の復旧・復興へ向けて日々業務に励んでいます。今回は4名の方々のメッセージをご紹介します。

大菅 勝之 副主査【滋賀県】  
【所属】 農地計画課  
【担当業務】 市町村の災害復旧事業の審査・指導業務を担当



左より1番目 川原谷技師  
左より2番目 大菅副主査

川原谷 耀 技師【秋田県】  
【所属】 農地計画課  
【担当業務】 市町村の災害復旧事業の審査・指導業務を担当

秋田県から福島県に来て五ヶ月近くが経ち、こちらの生活にも慣れたところです。現在災害復旧業務の団体営指導

を主に行っています。災害復旧業務が初めてのため、常に勉強の毎日です。常々、被災地元への復興に尽力して、地元の力になれるように頑張りたいと思います。



中央 杉本技師、右 中尾技師

中尾 淳 技師【滋賀県】  
【所属】 農村整備第一課  
【担当業務】 現場整備事業太田地区における工事監督や地元の要望の調整

福島県に派遣されて五ヶ月が経ちました。復興支援といつづつ学ぶことが多く、非常に貴重な経験をさせてもらっています。これからも復興の一助となるよう頑張ります。

杉本 達哉 技師【静岡県】  
【所属】 農村整備第一課  
【担当業務】 現場整備事業原町南部地区及び太田地区における工事監督や地元の要望の調整

今回初めて東北に来て、震災の被害や復興状況を勉強させていただいています。福島県の方々の「地域を復興し、盛り上げて

トピックス  
農地海岸の復旧完了

東日本大震災から10年目に入り、双葉町の避難指示区域の一部解除や、ロボットテストフィールドの全面開所、東日本大震災・原子力災害伝承館の開館等復興のあゆみを感じ取れます。農業農村整備事業においても、相双館内を除く全ての管内では、平成28年度までに全て復旧が完了しており、相双管内においては、約7割の復旧工事が完了しています。その中で、令和2年3月末に所管する海岸（農地海岸）が全て完了することができました。農地海岸は30地区あり、堤防から消波堤など、地区によってその構造は様々です。今回は、農地海岸の復旧状況から完了まで全国からのご支援も交えながらご紹介します。



まず、被害状況ですが、津波により堤防が破堤し、海水が内地まで押し寄せたり、消波ブロックが飛ばされ、国土の侵食が進むなどの被害が生じました。

堤防の復旧を行うにあたり、被災前の高さではなく、1mの強い構造に仕上げ、直ちに破堤しない強固な堤防となっていました。また、土木部との連携により、県道の嵩上げや、防災緑地の整備を行い、多重防護による強靱化を実施しているところもあります。



浅見川海岸（広野町）

震災発生後の平成23年度から農地海岸復旧業務に携わった北海道から沖縄県まで全国からの数多くの福耕支援隊（支援職員）の協力により、無事に復旧することができました。

消波ブロックを製作する場所を確保するための用地交渉から、現場指導、施工管理



など様々なご支援・アドバイスをいただきました。最後に、これまでご支援いただいた福耕支援隊の皆様へ感謝申し上げます。今後の復旧・復興が更に加速化していくよう、より一層頑張ります。

新規採用  
職員の紹介

- ① 所属・氏名
- ② 出身地
- ③ 学生時代の専攻
- ④ 志望動機・担当業務・抱負

- ① 農村振興課 蛭田 美紅
- ② 福島県いわき市
- ③ 都市・地域デザイン学専攻
- ④ 故郷である福島県で東日本大震災からの復旧・復興に携わりたいためです。また、「ふくしまの農育」推進事業など、将来を担う子供たちに向けて食や命、環境、農業・農村地域の大切さを学んでもらい、福島県の農業に興味を持ってもらうような事業にも携わりたいと思ったからです。現在は「ふくしまの農育」推進事業、農地耕作条件改善事業に関する業務が主な担当となっています。前々からぜひ携わりたいと思っていた業務を担当させていただき、非常にやりがいを感じています。

昨年の台風19号災害に加え、今年度は新型コロナウイルス感染症の流行など、不安な出来事が続いています。その中でも自分ができることに精一杯取り組んでいきたいと思えます。よろしくお願ひ致します。



「農空間」とは、農村において繰り広げられる農業の営み、それを支える農地や水、人々の生活、そして、美しい自然に囲まれ長い間に培われた伝統・文化などが溶けあった空間の事です。

編集担当 S

編集後記



令和2年度の流行語大賞はおそらく「コロナ」であろう。しかし、2020年上半期インスタグラム流行語大賞は「ぴえん」だそう。この「ぴえん」とは、SNSやメール等のやりとりで（涙）の意味として使われる言葉のこと。この流行語、10代から20代の女性をメインに行った調査結果のことだが、全くついていけない。因みに、「ぴえん」を上回るのが「ぼおん」。象さんか？とツツコミを入れたくなる。因みに個人的な2020年上半期の流行語大賞は「訓示」である。皆さんもコロナ禍で気分が沈んでいる時は、くだらないことを必死に考えるのもいいかもしれません。

「豆知識」  
「教示」とは、具体的にどうしたらよいか教えるを示すこと。  
「助言」とは、かたわらから有益な言葉をかけて相手を助けること。  
「訓示」とは、どうすべきであるか心得を説くこと。